

# 富倉そば全書

富倉そば振興会 金井 政弘(江戸ソバリエールシック)

## 三、オヤマボクチの栽培

### 1 オヤマボクチの特徴

オヤマボクチは、森の中に生えている植物(キク科ヤマボクチ属の多年草)でアザミ類に分類される。草丈 1m~1.5m 程になり、9月~11月頃に開花します。オヤマボクチは茎が直立して、茸毛が生えて、紫色を帯び、上部で枝分かれます。オヤマボクチの花は茎の上部に径 3cm~5cm 程の頭花を付け、下向きに開きます。オヤマボクチの根出葉は、長さ 25cm~35cm 程の卵形で、開花時には枯れてしまいます。茎葉は互生する単葉で、長さ 15cm~35cm 程の卵状楕円形になります。葉の裏面には白い綿毛が密生し、オヤマボクチの果実は瘦果で、長さ 6mm 程になり、細かい褐色の冠毛が生えます。



### 2 オヤマボクチの栽培

#### (1)概要

当初は、山に生えているオヤマボクチを収穫し、蕎麦のつなぎとして精製していましたが、そば店として蕎麦を提供するようになってからは、収穫量が不足してきたこともあり、畑で栽培するようになりました。

元々山の植物ですので、畑で栽培される野菜とは違い、畑の土壌、種の質、日照、気温の変化などによって、個々の生育のばらつきが大きく、質の良いオヤマボクチを大量に栽培する方法がなかなか難しいのが、現状です。

#### (2)栽培

ア 風通しと日当たりが良い場所を選び、夏は半日陰で管理し、春と秋に多めの肥料を与えます。自生地に近い、やや乾燥した山間部の環境が適しています。

暑さに弱いので、周囲に森や林が点在しているような場所を選びます。

イ ゴボウのような根があるため移植を嫌い、株分けやタネからの実生で増殖させます。





ウ タネを採取し、すぐにかく(採りまき)か、翌春にまきます。発芽させるためには、播種前に低温処理を行った後、プランタやポットに発芽用培土をいれ、播種します。

発芽に適した 20～25℃の温度環境を確保すると発芽率が高くなります。

エ 発芽後はビニール等をかけ、低温に遭わせないことが重要です。



オ 発芽から60日前後で、2～3枚ほどの本葉が出てきたら、定植可能な状態になります。

水はけのよい土壌を選びます。湿気に弱いため、高畝にするなどの対策が有効です。

防草のため、畝にマルチシートをかけて、40～50cm間隔で植え付けを行います。

カ 乾燥気味を好むため、水のやりすぎに注意します。特にプラ

ンター栽培では水切れさせないよう気をつけます。

キ 施肥はやせ地でも育ちますが、適切な施肥で品質や収量を安定させられます。堆肥を施用すると、リン酸の効きがよくなったり、微量元素が補給できたりする効果が期待できます。



ク 繊維を取るための葉の収穫は、開花期～秋が適しています。



上: オヤマボクチの収穫、主脈を残し、葉を削ぐように収穫する。



オヤマボクチの圃場

